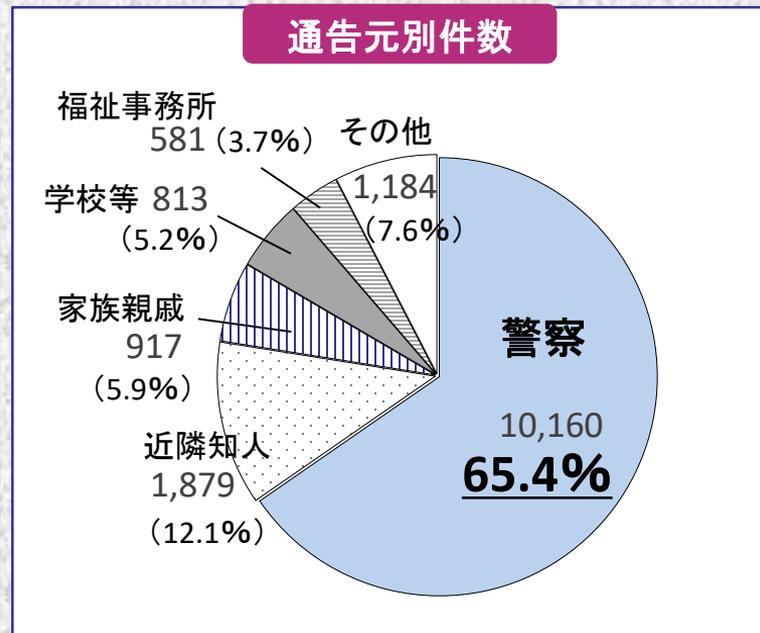
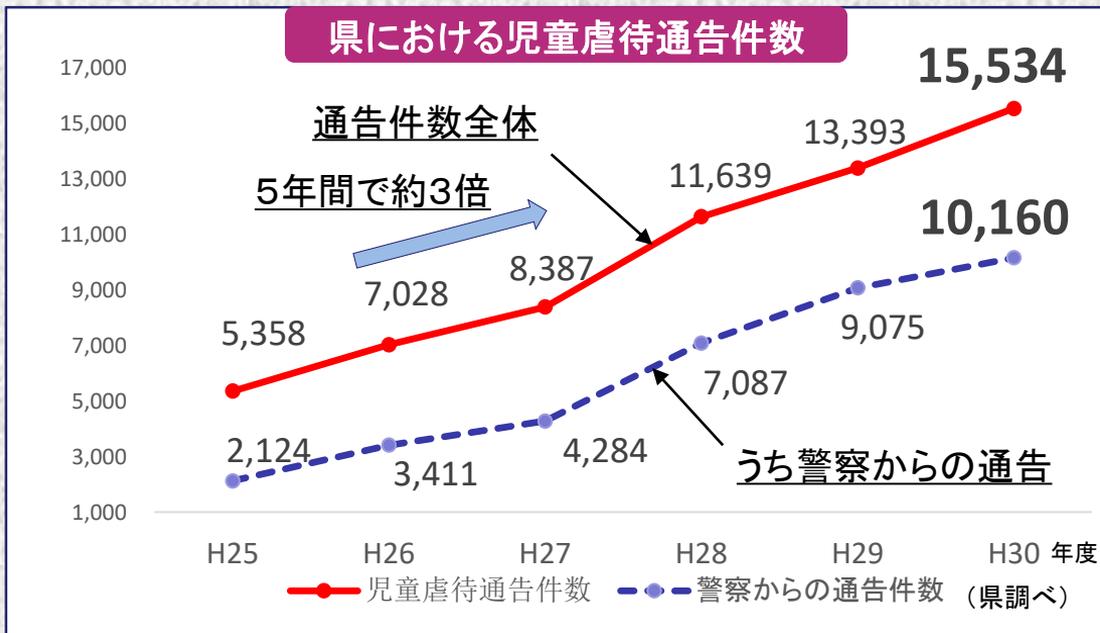


# 子供の命を守る ～県における児童虐待通告の現状～



H30年度の児童虐待通告件数は15,534件で過去最多  
警察からの通告が全体の65.4%を占める



# 全国で後を絶たない死亡事件



## 千葉県野田市

H31.1 10歳女兒が死亡。女兒が学校アンケートで父親からの暴力を訴えたが、その後父親からの強い要求を受け、市教育委員会が抗しきれずアンケートを渡すなどし、事件が発生。

## 札幌市

R1.6 2歳女兒が十分な食事を与えられず衰弱死。児童相談所と警察へそれぞれ通報があったが、十分な連携が図られず事件が発生。

## 鹿児島県出水市

R1.8 4歳女兒が風呂でおぼれ死亡。交際相手の存在や児童のあざ等の情報を児童相談所と警察が共有していない中で事件が発生。



児童相談所だけの対応では子供の命を守ることは困難  
警察との連携が特に重要

# 県と県警との連携 1 ～情報の共有～



## 県と県警が情報を共有することで適切な対応につなげる



H30年8月～  
全件共有開始

### 【共有の状況】

- ・共有する情報 児童の氏名、住所、虐待の種別
- ・更新の頻度 月1回
- ・共有方法 児童相談所が通告のあった虐待事案を入力  
警察署は警察本部に電話確認の上、情報確認

### 適切な対応につながった事例

#### <事例 1>

姉弟(10歳、5歳)を警察官が  
夜間に保護。  
共有情報を確認したところ過去の  
被虐待歴が判明し、一時保護へ。

#### <事例 2>

親に叩かれている子供がいるとの  
通報により、警察官が出動。  
親がしつけと主張したが、共有情報  
を確認したところ過去の被虐待歴が  
判明し、一時保護へ。

- ◆ **課題**
- ・情報がリアルタイムになっていない
  - ・警察署が直接情報を確認できない

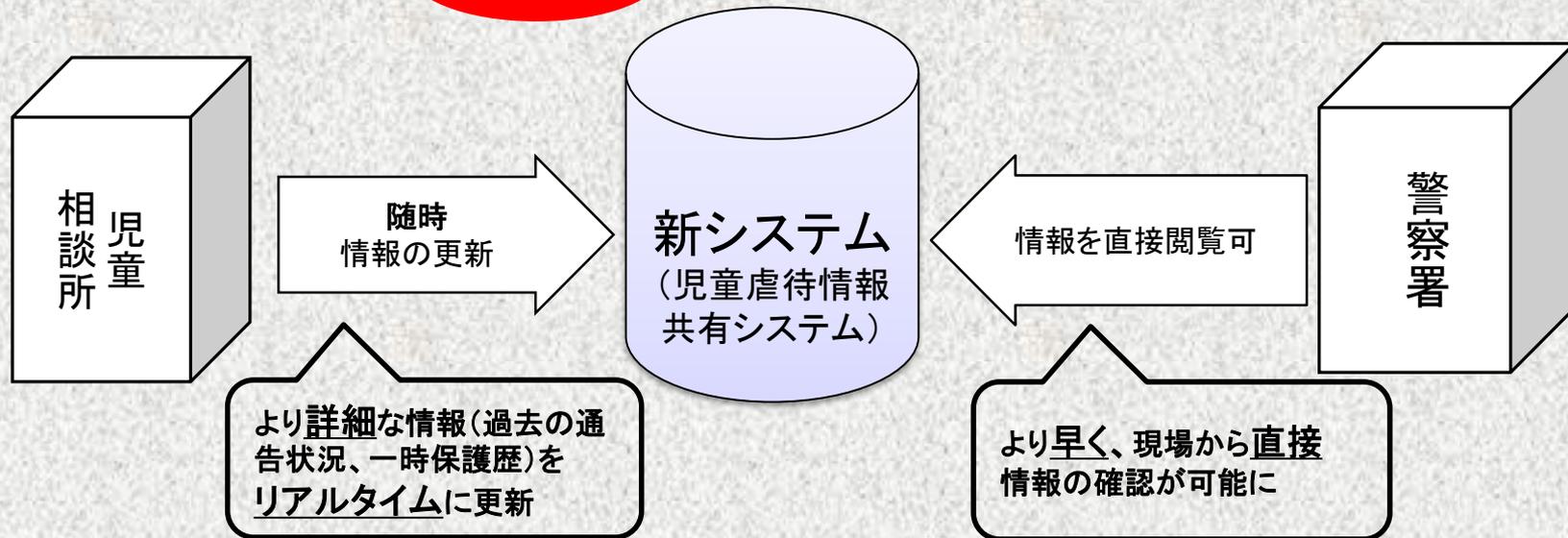
# 県と県警との連携 2 ～新システムによる情報共有～



## 新システムの概要

全国初

R2年1月中に本格稼働予定



➡ **児童相談所と警察署のきめ細かな連携により、悲惨な事件を防止し、子供の命を守る**

# 関係機関との連携による全県での対応

～「埼玉県児童虐待防止対策協議会」の設置～



## 1 趣 旨

児童虐待の根絶に向け関係者が一堂に会し、情報の共有や意見交換等を行う。

## 2 構成員

会長：知事

医師会、歯科医師会、弁護士会、市長会、町村会、  
民生委員・児童委員協議会、私立幼稚園連合会、保育協議会、  
私立中学高等学校協会、県教育委員会、警察本部 計12団体

## 3 内 容

児童虐待の現状や課題の共有、施策への意見・提言、  
困難事案についての検討など

## 4 第1回協議会

令和2年2月5日（水）

◆ 関係機関が一丸となって、全県で児童虐待防止に取り組む